

令和6年度生活支援体制整備事業の実績報告

1 事業の概要

○介護予防・日常生活支援総合事業（総合事業）では、多様な主体による多様な生活支援の充実が目的として掲げられており、この生活支援を担う地域の社会資源の把握、創出のために平成27年度に地域支援事業内に生活支援体制整備事業が創設された。

○生活支援体制整備事業において、市町村は生活支援コーディネーターの配置及び協議体の設置をすることとされている。

＜生活支援コーディネーターの役割＞

①地域の社会資源の開発、②関係者間のネットワークの構築、③支援ニーズと取組とのマッチング 等

＜協議体の役割＞

多様な主体間の情報共有、地域ニーズの把握、地域課題の問題提起 等

2 生活支援コーディネーター

(1) 本市の状況

○市全域レベル（第1層）の生活支援コーディネーターを基幹型地域包括支援センター（高齢者支援課内）に、日常生活圏域レベル（第2層）の生活支援コーディネーターを各在宅介護・地域包括支援センターに配置している。

○介護予防活動を行う地域の通いの場であるいきいきサロンの立上げ支援を中心に、地域の自主的な支え合いの活動の支援に取り組んでいる。

(2) 令和6年度の実績

○介護予防連絡調整会議を2回実施し、各事業や取組みなどの情報・意見交換を行った。

○在宅介護・地域包括支援センターが中心となり、民生委員や事業所等と連携しながら、いきいきサロンの開設支援を行った。令和7年度に2か所（ともに境南町）開設予定。

○いきいきサロン運営団体代表者会議を開催し、サロン同士の情報交換を行い、活動プログラムや役割分担で工夫していることや、ポッチャなど各サロン共通で実施できるプログラム等を検討した。また、各在宅介護・地域包括支援センターが中心となり、サロン間の交流や課題について検討した。

○健康長寿のまち武蔵野推進月間にて、いきいきサロンによる活動内容の発表と作品展示を行った。参加者自身の活動目標となったことに加え、参加者のご家族や来場者に活動内容が理解できたとの声や、新たなサロン参加者につなげることができた。

○介護予防活動支援団体支援事業のプログラム内容の拡充に向けて、他自治体の類似事例について調査した。また、拡充可能性のある事業に協力いただけそうな市内の団体に対してヒアリングした。制度の周知として、いきいきサロン事業運営団体代表者会議で、アナウンスを行った。

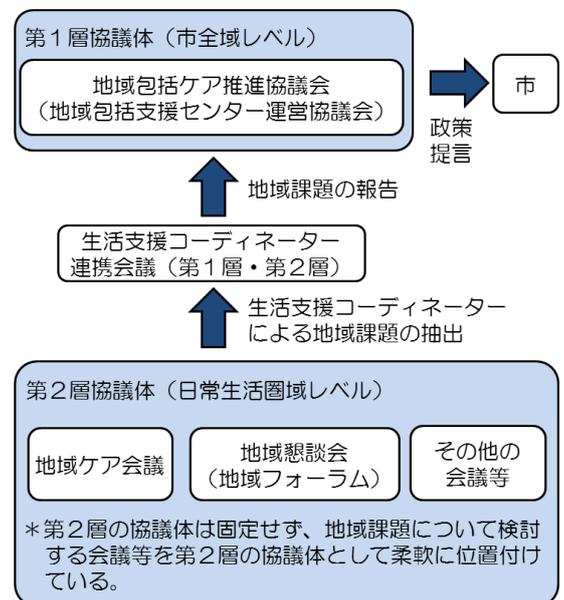
- いきいきサロンや地域ラジオ体操などの住民主体の地域活動については、安定した運営ができるよう継続支援を行っており、運営者の引継ぎなども実施することができた。
- 地域の高齢者のフレイル予防につなげるとともに、認知症のある方がやりがいをもって活動できる場として、市役所正面玄関において、いきいきガーデンサポーター事業を実施した。
- 生活支援コーディネーターが、いきいきサロン以外の地域の自主的な通いの場を訪問・支援し、地域の繋がりづくりを推進した。また、各地域の特性を活かしたフレイル予防の実践の場として、いきいき健康地域プロジェクトや北町キャラバン等を実施し、新たな担い手の発掘も行った。
- むさしの元気ライフ100（高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施事業）をいきいきサロンにおいて実施し（ポピュレーションアプローチ）、保健師及び管理栄養士の2名が栄養・口腔・フレイル予防に関する講座をおこなった。
- 生活支援コーディネーターの活動内容ごとの実施件数については、次表のとおり。

所属	担い手の養成	実態把握	立上支援	運営支援	啓発	個別支援	2層支援 (1層のみ)
ゆとりえ	4	101	1	143	177	2	—
吉祥寺本町	0	65	1	63	79	4	—
高齢者総合センター	4	80	1	34	32	5	—
吉祥寺ナーシングホーム	1	70	0	33	35	13	—
桜堤ケアハウス	0	35	0	107	61	8	—
武蔵野赤十字	13	16	31	116	20	8	—
高齢者支援課	6	89	6	59	7	2	22
合計	28	456	40	555	411	42	22

3 協議体

(1) 本市の状況

- 本市では、平成27年度に既存の「地域包括支援センター運営協議会」を、地域包括ケア全般について協議する「地域包括ケア推進協議会」に発展させ、市全域レベル（第1層）の協議体に位置付けた。
- 日常生活圏域レベル（第2層）の協議体については、生活支援コーディネーターが参加し、地域課題を抽出してきた場合に、その会議体（地域ケア会議等）を協議体としてみなしている（協議体相当）。
- 生活支援コーディネーターが協議体等で抽出し



た地域課題を「地域包括ケア推進協議会」に報告し、協議会から市に政策提言を行う仕組みを設けている。

(2) 令和6年度の協議体の実績（件数）

○市全域レベル（第1層）の協議体（地域包括ケア推進協議会）2回

○日常生活圏域レベル（第2層）の協議体相当 154回

4 課題及び今後の方向性

(1) 地域の自主的な活動の立上げ及び継続の支援について

○いきいきサロン事業は事業開始10年目を迎える。新たな活動場所の確保や担い手の確保、運営メンバーの高齢化、いきいきサロン事業運営団体代表者会議では、いきいきサロン参加者の高齢化による身体機能の変化へのフォローや、サロン同士の交流等が新たな課題となっている。いきいきサロン事業代表者会議や地域ごとのサロン同士の交流を図るとともに、いきいきサロン事業に関するアンケートを実施し、サロン活動の効果や意義を、運営団体や利用者と共有するとともに、今後の事業について検討する。

(2) フレイル予防の推進

○介護予防・フレイル予防を継続的に行っていくためには、介護予防・フレイル予防の必要性や効果等意識の向上とともに、活動内容や活動場所の普及啓発が必要である。健康長寿のまち武蔵野推進月間などで普及啓発を図り、関係各課・民間事業者を含めた関係機関との連携を図っていく。

○日本老年学的評価研究機構（JAGES）による介護予防コンサルテーションを実施した。各在宅介護・地域包括支援センターと地域診断の結果を共有したほか、介護予防事業の検討を行った。

○「健康長寿のまち武蔵野」を推進するために、地域診断をもとに本市の介護予防事業の課題設定や、効果的な介護予防事業のためのエビデンスづくり、今後の介護予防事業の効果検証方法の設定等を検討する。

○公園を利用したラジオ体操が各地域で行われており、緩やかな繋がりの中かでフレイル予防の取組が広がっている。今後も気軽に住民が参加することが出来て、地域が繋がれるような新たなフレイル予防の取組について、把握に努めるとともに活動を後押ししていく。

○いきいきガーデンサポーター事業については、参加者のフレイル予防および活動の場の提供のため、ラジオ体操と植物を育てるオレンジガーデンサポーター事業として継続していく。生活支援コーディネーターは本人、そのご家族、支援者等に対し事業の周知を行い、認知症地域支援推進員等のご協力をいただきながら適切な運営ができるよう支援を行う。